

進捗状況の概要【1ページ】

【構想名称】PRIMEプログラム：世界で活躍できる「実践人」を育成する！

世界の中で地域に根ざした総合大学改革モデルであるPRIMEプログラムにより、国際社会連携教育を全学展開し、実践人を育成する。これまで、岡山大学改革プランに基づき改革の日常化に取り組み、全学出動態勢で事業を推進してきた。

■ 体制構築

○改革・戦略部門と実践・運営部門を分離し、大学改革担当理事（専任）及び大学改革担当学長補佐（3人）、大学改革推進室を新設。実務家集団5U（UEA, URA, UAA, UGA, UPR）の外部登用、大学改革推進会議とBR（Build & Renovate）会議、高等教育開発推進機構（現：全学教育・学生支援機構）を新設。

■ 教育の国際通用性と質保証

○教育の体系化・可視化：平成27年度、科目ナンバリング100%達成、学士課程教育構築（Q-cum）システム構築。

○シラバス英語化：平成27年度、全授業科目のシラバス英語化100%達成。

○教学システム改革：平成28年度、60分授業（単位の実質化）・4学期制の全学一斉導入。

○Functional GPA：平成28年度、素点に基づく公平なGP算出法に転換。

■ リベラル・アーツ教育と語学力の育成

○教養教育改革：教養教育の理念・目標に則って再編成し、平成28年度より新教養教育を全学一斉に開始。日本文化を英語で修得できる科目を26科目開講。

○日常の学び：日々の異文化体験、外国語の学びの場としてソーシャルラーニングスペース（L-café）。平成28年3月、国際学生シェアハウスを整備。

■ グローバル実践型教育

○平成27年度より試験導入、平成28年度より全学部で実施。教養教育科目で国際インターンシップ科目（Co-opプログラム）等4科目、専門教育科目では全学部・6研究科で34の特色あるプログラムを展開。

■ 学部・学科の境界を越えるグローバル教育

○部局横断的に展開する特徴的なインバウンドプログラム（グローバル・ディスカバリー・プログラム）とアウトバウンドプログラム（グローバル人材育成特別コース）により、全学のグローバル教育を推進。

■ 国際化推進体制

○グローバル・パートナーズ：平成26年7月、国際センターを再編してグローバル・パートナーズ設置。

○大学院予備教育特別コース：平成26年10月開設。平成29年4月現在、41人が大学院に進学。

○短期留学受入プログラム（3+1）：平成26年10月開設。平成28年末までに86人に日本語を指導。

■ 国際化を支えるガバナンス体制

○年俸制教員数（数、割合）：

平成26年12月、制度構築。

平成27年度311人（20.4%）。

平成29年度516人（33.9%）。

○「人をかえる」仕組の推進：

PBL型研修（若手職員塾等）

の拡充。平成28年度515

人が参加。

岡山市と人事交流。

■ 異分野融合による医療工学分野の強化

○平成27年度、生命医用工学専攻を設置。

○平成30年度、医療統合科学研究科を新設予定。

3×3の国際社会連携教育で高度実践人を育成

全教職員のボーダレスな指導

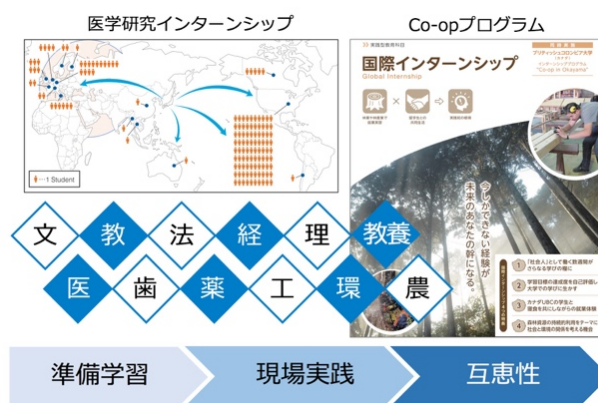
日本人学生・留学生のボーダレスな交流



特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

▶ **世界と地域を繋ぐグローバル実践型教育の全学展開**

学生がグローバルな現場（地域・企業・国際社会の現場）を体験し、課題発見と解決への道筋を学ぶグローバル実践型教育は、世界で活躍できる「実践人」を育成するPRIMEプログラムの要と言える。教養教育では、ブリティッシュコロンビア大学（UBC）Co-opプログラムと連動し、受入留学生と共に、日本人学生を関係企業に派遣する本学独自の企業体験型科目「国際インターンシップ」等4科目を開講し、平成28年度は46人が履修した。専門教育では、全部局がそれぞれの専門性を活かした特色あるグローバル実践型教育を展開し、平成28年度11学部26プログラム、6研究科8プログラムで合計約260人の学生が留学した。代表的なものとして、海外の研究室でメンバーの一員として研究に参加する「医学研究インターンシップ」、グアム・ベトナム・タイにおける農場実習を通して課題発見と解決を図る「海外短期農業体験実習」、日系企業のグローバル戦略と環境ものづくりを学ぶ「環境ものづくり国際インターンシッププログラム」、カンボジア王国教育省、岡山のNGO、岡山県教育委員会等と連携して、小学校運動会の教育活動に関わる「カンボジア王国におけるサービス・ラーニング」があり、**大学と地域・企業・国際社会との互恵性が保持された優れた取組**である。



▶ **多様性を軸とするグローバル・ディスカバリー・プログラム**

海外生（30人）と国内生（30人）が、英語を共通言語として共に学ぶ学士課程プログラム「グローバル・ディスカバリー・プログラム」は、学部・学科の境界を越えて多様な専門知識と実践を学ぶ**総合大学ならではのグローバル人材育成教育プログラム**である。文理融合の全学プログラムとして開設し、英語のみで卒業できる「ディスカバリー専修トラック」と、学部授業を組み合わせる「学部・学科横断型マッチング・トラック」を設定している。平成29年10月開設に向けて準備し、10月入学の国際入試では78人の応募者から17カ国34人の合格者を得た。学部・学科の境界を越えた多様な学びの場を、多様な国・文化背景の学生に提供することで、21世紀の未来を切り拓く人材を輩出する。



▶ **岡山大学ミャンマー事業から国立六大学による国際連携事業への展開**

岡山大学は、過去20年に及ぶ先駆的なミャンマー医療支援事業を基に、平成25年3月に発足した「国立六大学国際連携機構」の主幹校として現地事務所を活用しながら、医療・工学分野での人材育成のJICAプロジェクト等の共同事業を実施している。平成27年3月、三菱商事と本学を共同代表として、省庁、企業、大学（六大学含む）等計70機関が参加する「ミャンマー人材育成支援産学官連携ぶらっとフォーム」を設立した。国立六大学国際連携機構は、アジア地域では平成27年9月にASEAN+3 UNetに加盟し、欧州では平成28年3月にオランダ高等教育国際協力機構と協定を締結し、8月には欧州拠点として、オランダに国立六大学欧州事務所を開設した。本取組は、**地方大学が連携し産学官の協働の下、国際化を推進するモデル**として意義が大きい。

